



「介護離職から虐待なんて、飛躍しすぎ！」と思われるかもしれません。ですが、私が介護の現場で働いていたときに、それは決して珍しいことはありませんでした。その悲しい現実を目の当たりにし、何とか未然に防ぐことができないかと思い悩んだ結果、「となりのかいご」を立ち上げるきっかけとなつたのです。

りがちになることで社会との接觸を辭職し、介護を逃げ場にしていないだろうか、と感じる場面が多くあります。しかし、仕事を辞めて介護を選択すると、たいていの場合「良い介護体制づくり」ができません。なぜなら、介護は仕事のようにやつただけの対価を得られるわけではなく、家の中に引きこも

められる。わざと隣にしまづらう。  
らです。

いくら介護は終わりが見えないといつても、いつか必ず終わるときがやってきます。介護中は親の年金で生活したとしても、介護が終わればそれはいきません。再就職をしても、介護離職をする前と同じ収入を得ることはかなり難しいでしょう。

職場への影響も

特に高い技術を要するような現場であればなおさらです。一人抜けたことで、ほかの人たちに負荷が掛かり、それが悪循環のきっかけになることもあります。いざ、職場で介護離職が起きてしまふと、現場を取り仕切る管理職にとつてはもちろん、周囲の人にも大きな影響を及ぼすことがあります。

おわりに

では、どうすれば、職場における「介護離職」を防ぐのでしょうか。残念ながら介護体暇・休業の制度を整備するだけでは解決できません。“家族だけで介護を抱え込まないようになる”ということに尽きるのであります。

あなたが抜けた穴を埋めるこ  
とは簡単ではありません。

はじ  
めに

介護離職を防ぐために（前編）

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie. He is smiling slightly and looking towards the camera.

NPO法人となりのかいご  
代表理事

かわうち じゅん  
川内 潤

上智大学卒業。老人ホーム紹介事業、在宅・施設介護職員等を経て、2008年市民団体「となりのかいご」設立、2014年NPO法人化し、現職。企業で介護セミナー、個別相談、社内制度見直し等の支援を行う。社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士。

第1回

私の主な活動内容は、介護職

その製造ラインで働く方から、  
次のような相談を受けました。

す。そのため、「介護が必要な親も、何かあればすぐに対応で

介護離職後に  
得る問題

起き得る問題

として働いた経験から、自治体や企業での介護セミナーや個別相談になります。特に、介護セミナーでは、「介護のために仕事を辞めてはいけない」「仕事を続けることこそ親孝行」という話を必ずしています。

ある工場勤務者が抱える  
悩みから

恼みから

「すぐに代わりの人間が見つかる今の仕事よりも、自分を必要としている親の介護の方がやりがいがあり、自分にしかできないことなのではないか」親を大切に思う気持ちが痛いほど伝わってきます。しかし、感情的な面だけが先走ってしまう「自分が仕事を辞めて介護の何を担うのか」介護が終わった後の自身の生活はどうなるのか」といった「介護生活の具體的なイメージ」が「できていなか」ようを感じました。

A cartoon illustration of a man with dark hair and a mustache, wearing a light blue shirt. He has his arms crossed and a sad expression on his face. Two thought bubbles are floating above his head, each containing a different person: a young boy on the left and an elderly woman on the right.

しかし、介護は育児とは異なり、終わりが見えないケースが多くみられます。そのため介護で仕事を辞めてしまう「介護離職」をして、収入が親の年金のみの状態に陥ってしまうと、介護生活が長引けば長引くほど金銭的に困窮することが少なくありません。金銭的に困窮するとい詰められて、最悪のケースでは大切な親を怒鳴つてしまったり、手を挙げてしまったりする

A black and white illustration depicting a scene of physical abuse or neglect. A man in a pink shirt and dark pants is carrying a woman over his shoulder, with her arms wrapped around his neck. He has a distressed expression. Another man, also in a pink shirt, stands behind him, looking down at the woman. The background shows a simple room with a window and some furniture.

“虐待”に至ってしまう…。

「介護離職から虐待なんて、飛躍しすぎ！」と思われるかもしれません。ですが、私が介護の現場で働いていたときに、それは決して珍しいことではありませんでした。その悲しい現実を目の当たりにし、何とか未然に防ぐことができないかと思ふ悩んだ結果、「となりのかい」を立ち上げるきっかけとなつたのです。

さらに、かなり厳しい意見に

なりますが、ご自身が“求められる居場所”として介護を理由に辞職し、介護を逃げ場にしてしまったか、と感じる場面も多々あります。しかし、仕事を辞めて介護を選択すると、た

いていの場合「良い介護体制づくり」ができません。なぜならば、介護は仕事のようにやればやつただけの対価を得られるわけではなく、家の中に引きこもりがちになることで社会との接点が減り、介護する側が追い詰

められる状況に陥ってしまうか

られます。

いくら介護は終わりが見えないといつても、いつか必ず終わるときがやってきます。介護中は親の年金で生活したとしても、

介護が終わればそはいきません。再就職をしても、介護離職をする前と同じ収入を得られることはかなり難しいでしょう。

### ■職場への影響も

また、自宅や実家と職場が近

くて、介護離職をせずに、自分が無理をすれば「仕事」と「介護」の両立ができてしまうケースもあります。しばらくは両立ができる、要介護状態の進行に伴い介護量が増え、心身共に限界を超えると、仕事に影響が出て、職場へ迷惑を掛けるようになります。そのころには人に相談する気力もなくなり、結果として介護離職…。残念ですが、これもよくある話です。

あなたが抜けた穴を埋めることは簡単ではありません。

特に高い技術を要する場

場であればなおさら

抜けたことで、ほ

きつかけになるこ

いざ、職場で介護を

しますと、現場を

負荷が掛かり、そ

きつかけになるこ

しまつと、現場を

おわりに

では、どうすれ

ける「介護離職」

しようか。残念な

暇・休業の制度を

では解決できません

けで介護を抱え込

する」ということ

です。

次回は、なぜ

護を抱え込んでし

する予定です。

「介護離職から虐待なんて、飛躍しすぎ！」と思われるかもしれません。ですが、私が介護の現場で働いていたときに、それは決して珍しいことはありませんでした。その悲しい現実を目の当たりにし、何とか未然に防ぐことができないかと思い悩んだ結果、「となりのかいご」を立ち上げるきっかけとなつたのです。

りがちになることで社会との接觸がありますが、この自らが求められる状況に陥ってしまうことがあります。そこで、この居場所として介護を理由に辞職し、介護を逃げ場にしていないだろうか、と感じる場面も多々あります。しかし、仕事を辞めて介護を選択すると、たいていの場合、「良い介護体制づくり」ができません。なぜならば、介護は仕事のようにやればやつただけの対価を得られるわけではなく、家の中に引きこもりがちになります。

居場所として介護を理由に辞職し、介護を逃げ場にしていないだろうか、と感じる場面も多々あります。しかし、仕事を辞めて介護を選択すると、たいていの場合、「良い介護体制づくり」ができません。なぜならば、介護は仕事のようにやればやつただけの対価を得られるわけではなく、家の中に引きこもりがちになります。

特に高い技術を要するような現場であればなおさらです。一人抜けたことで、ほかの人たちに負荷が掛かり、それが悪循環のきっかけになることもあります。いざ、職場で介護離職が起きてしまうと、現場を取り仕切る管理職にとってはもちろん、周囲の人にも大きな影響を及ぼすことがあります。